

2023 年度 第 3 四半期 決算説明会 質疑応答要約

● 全体

Q) 第 3 四半期の事業セグメント利益は社内計画比で上振れたとのことだが、年間予想は据え置いた。その背景は、第 4 四半期に特別な費用を見込んでいるのか。

A) 事業ごとには若干の上振れ・下振れの可能性があるものの、全社として大きな変動が見込まれないため、年間予想を据え置いた。第 4 四半期については、例年、販管費などの経費が多いことに加え、第 3 四半期からの後ろ倒しも一部あり、費用を多めに織り込んでいる。

● プリンティング&ソリューションズ (P&S) 事業

Q) 市中在庫・社内在庫の状況について説明してほしい。

A) 市中在庫は同業他社も含め、レーザー・インクジェットともに適正化している。社内の在庫についても、需要に応じた生産調整により、工場在庫・販社在庫ともに適正化が進んでいる。年度末に向けてもう少し減少する見込み。

Q) 第 3 四半期のレーザーの消耗品が堅調な理由と、今後の消耗品全体の見立てについて教えてほしい。

A) 第 3 四半期にレーザーの新製品投入があり、新製品の消耗品販売が増えた。加えて、製品本体の使用期間の長期化にともない、市場での稼働台数 (MIF) が想定ほど落ち込んでいないことが消耗品の販売に寄与しており、来年度以降もこの動向は大きく変わらないと見ている。来年度の消耗品については、現時点で精査中だが、今年度並みと見ている。

Q) 第 3 四半期の製品本体の状況を見ると、台数以上に売上高の減少が大きいのが、レーザー・インクジェットともに価格競争が厳しくなっているのか。

A) 同業他社含めプロモーションが増えており、価格競争が厳しくなっている。

● マシナリー事業

Q) 産業機器の第 3 四半期の受注水準が回復した背景と、想定との比較は。

A) 中国での EV 関連の需要回復が背景にある。当社の受注は 4 月に底を打ち、そこから徐々に上昇している。回復傾向という点は想定通りだが、回復スピードは想定よりも非常に緩やか。

Q) 産業機器の受注について今後の見立ては。

A) 回復傾向であることには変わらないが、本格的な回復の時期は慎重に見極めたい。第 4 四半期は春節もあり、回復スピードの鈍化が見込まれるが、当社としては少しでも多くの受注を獲得できるよう尽力する。

- **ドミノ事業**

Q) 設備投資需要の回復が見込めない中、将来を見据えた投資が続く。来年度の利益の見立ては。

A) 製品本体は設備投資需要の影響を受けるが、消耗品は食品・飲料・医薬品などの生活必需品の消費からくる印刷需要に支えられている。消耗品が堅調に推移すれば、売上・利益に結び付く。ただし、今後数年は基幹システムの刷新にともなう経費や固定資産の償却があり、利益の圧迫要因になる。

以上